

◎農業振興の経費

農業振興運営事業

産業振興課

【総合計画上の位置づけ】

活力ある暮らしやすいまち

産業振興: 農業・漁業、商工業などの産業が活発なまち

【事業の目的】

対象 農業従事者等

意図 農業施策上必要な協議調整や事業を行い、農業経営の安定を図ることで市場の経営基盤確立と野菜の安定供給を図るため。

効果 農業経営の安定と農産物の安定供給

【事業の内容】

(1) 農業振興運営事業

- ・ 農業者、農業団体、学識経験者、流通関係者、市民等からなる鎌倉市農業振興協議会を設置し、農業振興について協議を行った。
- ・ 鎌倉青果地方卸売市場に対する補助、秋の収穫まつりの実施などにより、農業の振興を図った。
- ・ 植木剪定材を利用し、農業に適した堆肥を作成・販売することにより、堆肥の利用を促進し化学肥料の使用量を減らすことを目指した。
- ・ 原油価格の高騰等に伴う急激な原材料費の高騰に対し、鎌倉ブランド堆肥購入代・施設栽培用燃料代の一部を助成することにより、農業者の経営安定を支援した。

(2) 農業施設整備事業

- ・ 平成20年度は、農道等の整備、修繕を要する事案が発生しなかった。

【中事業に含まれる実施計画事業】

農産物等ブランド事業(6-2-2-①)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
13,080	14,174	11,218		2,956
主な支出内訳				
・ 農業振興運営事業				
鎌倉市農業振興協議会委員報償費				114
鎌倉ブランド堆肥パッキング等委託料				1,366
秋の収穫まつり等委託料				858
農業関係団体負担金				247
農業振興事業費補助金				3,010
鎌倉青果地方卸売市場活性化事業費補助金				2,690
鎌倉青果地方卸売市場集荷奨励事業費補助金				1,534
鎌倉市野菜生産出荷奨励事業費補助金				456
鎌倉ブランド堆肥購入費補助金				412
鎌倉市施設栽培用燃料代補助金				312
・ 農業施設整備事業				
農道等修繕料				0
農道等整備委託料				0

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-18 農業振興運営事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	349 農業振興運営事業					
		350 農業振興運営事業					
		353 農業施設整備事業					
主管課	産業振興課		関連課				
分野名	産業振興						
目標 (目標値)	市民生活と密着した都市近郊農業の振興 鎌倉ブランド事業等による、農業従事者の生活安定と後継者の育成、環境と調和した農業の推進						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	11,218千円	11,393千円	12,344千円			
	(国・県)			77千円			
	(負担金等)	1,366千円	1,056千円	1,361千円			
	(一般財源)	9,852千円	10,337千円	10,906千円			
	人員配置数	1.5人	1.6人	1.6人			
	人 件 費	14,432千円	15,264千円	14,611千円			
協働の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費	25,650千円	26,657千円	26,955千円			
	市民1人当 りの経費	145円	152円	154円			
	対象者1人 当りの経費						
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価	
農業振興協議会事務		19年度に農政協議会を廃止し、20年度に新たなメンバーによる組織改編をし、農業振興協議会を設置。(H20予 108千円 → H20実績 114千円)			④	① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
秋の収穫まつり 集客数	◎	目標値	3,000人	3,000人	3,000人		
		実績値	3,000人	3,000人			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
農業体験 参加者	◎	目標値	30組	30組	30組		
		実績値	35組	30組			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
鎌倉ブランド堆肥作成袋数	○	目標値	10,000袋	10,000袋	10,000袋		
		実績値	6,285袋	7,351袋			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
耕作放棄地面積	×	目標値	3.0	2.9	3.7	3.3	
		実績値	3.3	4.1			
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) (1)農業振興地域整備計画は前回の改定から10年が経過しており、現状を調査した上での見直しに向けた検討が必要である。また農地法改正後に県の整備計画変更に伴う市計画の変更が必要となる。 (2)農業振興地域内の農道整備については未整備箇所や危険箇所などを優先に順次整備を進める必要がある。 (3)農政協議会の組織を見直し、農業者だけでなく様々な分野の人材を登用する必要がある。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) (1)農業振興地域の見直しに向けた調査は、現状調査のうえの検討が必要であるが、H20年度は、国の指導のあった耕作放棄地全体調査を実施し、農業振興地域内の耕作放棄地の現状把握を行うことが出来た。 (2)中期実施計画事業において、21年度整備実施となった。 (3)農政協議会に代わるあらたな協議会として、平成20年4月鎌倉市農業振興協議会を設置。協議会の委員構成を、農業者、学識経験者をはじめ、JA関係、流通関係者、公募市民、行政関係者で構成し、様々な分野の人材を登用。活発な意見交換を行った。また、現地見学会も実施し、農業者から生の声を聞くことが出来た。 (4)緊急経済対策で、農業者への堆肥購入費助成、重油購入費助成の補助を行った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) (1)H20年度耕作放棄地解消対策の調査結果の事後処理。 (2)農業振興地域内の農道整備については未整備箇所の整備の検討や、市道部分の危険箇所整備の関係課との調整。 (3)農業振興協議会での鎌倉の農業振興施策の具体的な行動計画の検討。
	今後の方針 (対応・改善)	(1)H20年度耕作放棄地解消対策の調査結果に基づき、所有者への意向調査を実施し、対策を検討。 (2)農業振興地域内の農道整備については未整備箇所の整備の検討や、市道部分の危険箇所などについて関係課(道路整備課、河川課)と調整を進める。 (3)21年度の農業振興協議会において、農業振興施策の具体的な行動計画をつくる。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 無
	耕作放棄地解消対策調査結果に基づく、農業振興地域内の所有者の意向確認などを計画的に進め、農業者、関連団体とも連携をとりながら、鎌倉の農業の現状を把握し、農業振興協議会で今後の農業振興の方向性を検討する。		
担当課長氏名:	磯崎 勇次		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 無
	本市の都市農業の振興のため、耕作放棄地解消対策を実施し、農地の維持・保全につとめ、安全・安心な野菜の供給、地産地消を推進していく。生産者と消費者それぞれの立場から、鎌倉市の農業振興に取り組むことのできるような施策の検討を行う。		
担当部名	市民経済部	部長名	相澤 千香子